



シリコンの成型ラインを増やすほか自動化を進める(福岡県直方市)

シリコン成型品強化

メイホー半導体金型技術を応用

金型製造のメイホー(福岡県直方市、戸田政八社長)はシリコン成型品事業を強化する。シリコン製の発光ダイオード(LED)部品を開発したほか、携帯電話の電池カバー用シール材を増産する。投資額は最大2億円を見込む。2010年12月期に1億円だった同事業の売上高を14年12月期に4億円に引き上げる。主力の半導体部品向け金型事業が低迷しており、新規分野の開拓を目指す。

LED部品など量産へ

シリコンは一般的なプラスチックに比べ、耐熱性や耐久性に優れる。半面、溶けた際に粘り気がなく、金型に3割(容積は100万分の1)ほどは隙間があっても入り込んでしまい、精密な成型が難しかった。メイホーは半導体部品のリードフレーム向け金型で培った精密加工技術をシリコン用の金型に転用。LEDチップを取

り付けるシリコン製台座を開発した。照明などに使う高輝度LED向けの需要を見込む。高輝度LEDは高温になりやすく、LEDチップが寿命を迎える前にプラスチック製台座が熱で

変形してしまうことがあり、台座をシリコン製に切り替えればプラスチック製の10倍まで寿命を延ばせるという。

社は、部品の取り出しや搬送作業を自動化することで生産効率を高め、増産する。

メイホーは、LED部品の量産へ向けシリコン成型品専用の成型機を拡充。直方市内の自社工場に5つあるシリコン成型ラインを3年以内に15に増やす計画だ。防水対応が進む携帯電話でも、耐久性の高いシリコン製シール材への需要が高まっている。同

九州の半導体産業低迷

九州の半導体産業は曲がり角を迎えている。九州経済産業局によると、九州のIC生産量は2011年10月まで7カ月連続で前年実績割れとなり、4~10月の合計は前年同期比4%減った。「シリコンアイランド」の裾野を担ってきた地場企業

地場企業、新分野開拓急ぐ

医療・環境など探る

年、水処理装置を事業化し(筑紫野市)は今春にも本社果を検査する機器も発売する。露光装置などの製造を担ってきたナノメートル単位の精密加工技術を生かした。京谷忠幸社長は「半導体は景気変動の影響が大きく、医療、環境を半導体と並ぶ収益源に育て経営を安定させる」と話す。板金加工の三松(福岡県長)としている。